

エコセーバーTetra・操作マニュアル

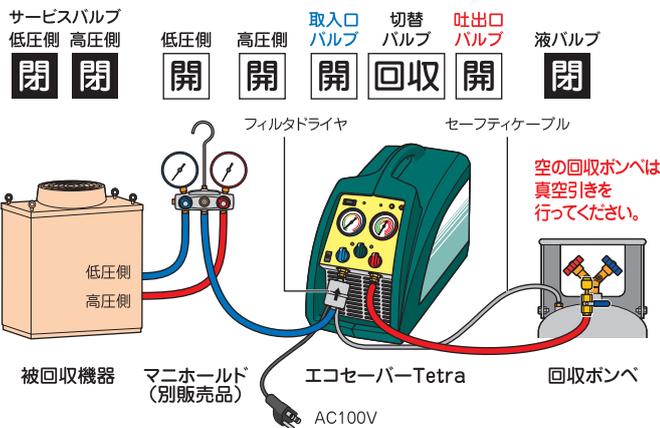
注意

本マニュアルは操作手順の概略を示したものです。ご使用前に、正しく安全にお使いいただくため、取扱説明書を必ずお読みください。

フロン回収作業

一般的な液回収の操作方法について示します。

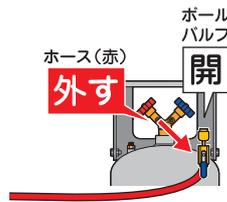
1 ホース類の接続と排気



① ホース・コード類と各バルブを上図のようにセットする。

※ フィルタドライヤの取付方向に注意すること。
また、回収量 90kg または詰まったときに交換すること。

② ホース(赤)のボールバルブを **開**



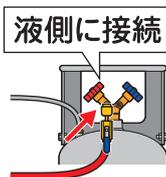
③ 電源スイッチを **ON**



④ 吸引圧カゲージが真空に達したら、回収装置の取入口バルブを **パーズ** 切替バルブを **パーズ**



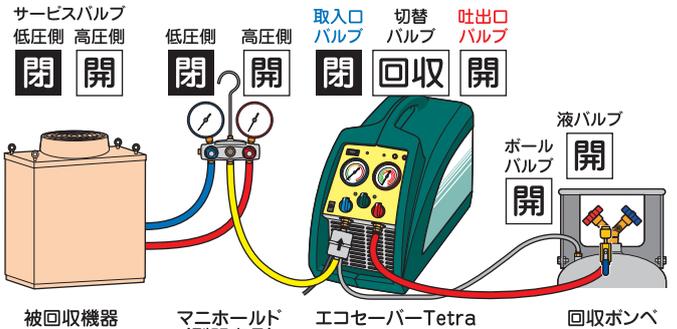
⑤ 再度、吸引圧カゲージが真空に達したら、一旦外したホースをポンベの液側に **接続**



⑥ 電源スイッチを **OFF**



2 回収作業



① 各バルブを上図のように操作する。

② 電源スイッチを **ON**



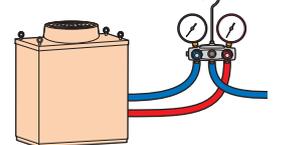
③ 取入口バルブを **ゆっくりと開**



④ 液回収が終了し、ガス回収に変わったら、被回収機器とマニホールドの低圧側を **開**



⑤ マニホールドの低圧側が所定の圧力(下表)に達したら、被回収機器とマニホールドの低圧側・高圧側を **閉**



回収終了後5~10分そのまま放置して、冷凍機油に溶け込んだフロンの蒸発を待ってください。所定の圧力より圧力が上昇した場合は、再度回収を実施してください

冷媒種類	充填量	所定の圧力
FC1, FC2, FC3容器の圧力区分に該当するフロンガス	2kg未満	0MPa
	2kg以上	-0.01MPa

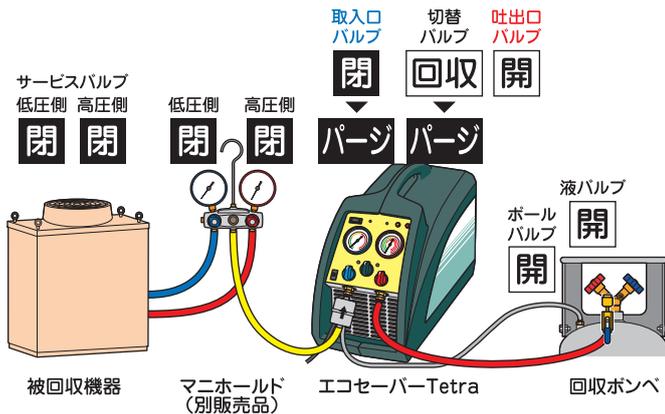
⑥ 電源スイッチを **OFF**



⑦ 取入口バルブを **閉**



3 フロン排出(パーズ)作業



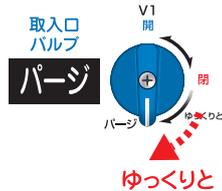
① 切替バルブを **パーズ**



② 電源スイッチを **ON**



③ 取入口バルブを
ゆっくりと **パーズ**



④ 吸引圧力ゲージが
真空になったら、
回収ボンベの液バルブを **閉**

⑤ 吐出口バルブとホース赤の
ボールバルブを **閉**

⑥ 電源スイッチを **OFF**



⑦ 切替バルブを **回収**



⑧ ホースの接続を外す

注意 ◆ 吐出側には少量のフロンが残っているため、
フロンの吹き出しに注意すること。

※回収装置内に残ったフロンは、真空引きしたボンベに回収してください。

すべての回収作業が終了

Asada アサダ株式会社

本社 / 名古屋市北区上飯田西町3-60 TEL (052) 911-7165 E-mail: sales@asada.co.jp

支店 / 東京・名古屋・大阪	海外事業所	工場
営業所 / 札幌・仙台・さいたま・横浜 広島・福岡	アサダ・タイランド社 台湾浅田股份有限公司 アサダ・ベトナム社 アサダ・インド社 上海浅田进出口有限公司 アサダ USA	(バンコク) (台北) (ホーチミン) (ムンバイ) (上海) (オホシユウ)
		夫山工場 (愛知県・岡崎市) 第一精工株式会社 (松本市) アサダ・マンナリー社 (バンコク)

www.asada.co.jp

コードNo.IM0122 Q

注意

● 本回収装置は 100V 750W で起動電流が大きいため、
電圧降下にご注意ください。

防止方法

- ・できるだけ元電源、回収装置単独で使用する。
- ・やむを得ず延長コードやリールコンセントを使用する場合は、線径の太いものを使用する。
- ・コードリールは、巻いたまま使用しない。
- ・昇圧器(アップトランス)を使う。
- ・発電機を使う。
- ・別販売品のダウントランスを使用して 200V 電源を使用する。

● 周辺温度が高い場合、ボンベの温度・圧力の上昇にご注意ください。

対処方法

- ・真空引きされた予備のボンベと交換する。
- ・サブクールによりボンベを冷却する。
- ・回収装置の吸引側の圧力を下げて使用する。
- ・120L ボンベを使用する。
- ・別売のクーリングユニットを使用する。

回収時間の短縮方法

● 回収ボンベ内の圧力上昇を抑える (夏場での回収/効率的な段取り)方法

- ・日陰の風通しの良い場所に回収機器を設置。
- ・回収装置や回収容器を床に直置きせず、床から1m程度はなす。
- ・予備の回収容器を日陰に数本用意しておく。
- ・周辺温度が高い場合には、空冷凝縮器の効果が低い為、扇風機等で凝縮空気量を増加させる。
- ・回収容器を濡れ雑巾などを利用して冷却する。
- ・周辺温度が高い場合には、回収容器を扇風機などで強制冷却させる。
- ・クーリングユニットやサブクールを適時使用する。
- ・できるだけ液回収を優先して回収する。
- ・回収装置の吐出圧力が高くないように、吸引圧力を調整し、回収作業を行う。

● 機器内の圧力低下による効率低下を防ぐ (低温・凝縮液化/効率的な段取り)方法

- ・液回収優先した後、液・ガス両側ポートから回収。
- ・対象機器のクランクケースヒータを通電したままにする。
- ・アキュムレータ等に結露したら加温・振動し蒸発を促す。
- ・吸引圧力が 0.1MPa 程度で、回収が進まない場合、作業を休止し圧力上昇を待って回収を再開。
- ・複数の機器を同時接続し、低温凝縮の影響を低減させる。
- ・縦配管が長い場合は、配管下部からも回収を行うことや配管下部を加温・振動し蒸発を促す。

出典：冷媒回収推進・技術センター「冷媒回収処理技術」
(社)日本冷凍空調設備工業連合会「フロン回収ポケットマニュアル」